

回答・元玉川大学教職サポートルーム客員教授 峯岸 誠

### 第3回 グループ学習の工夫



最近の授業研究などではグループ学習が多くみられます。それはなぜですか。また、学習指導要領との関係やアクティブ・ラーニングとの関係はどのようになっているのですか。具体的な例を教えてください。



#### (1) グループ学習と学習指導要領

学習指導要領は、このことについて総則の「第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の2の(7)で次のように示しています。

(7) 各教科等の指導に当たっては、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師間の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。(下線は筆者)

学習内容の定着と個に応じた指導の一つとしてグループ別指導があげられています。グループによる討論や話し合い、発表などの活動を行い、学習内容の確実な習得と個に応じた学習指導をはかろうとするものです。

#### (2) アクティブ・ラーニングとの関係

平成26年11月に文部科学大臣が、中央教育審議会に対して次期学習指導要領について諮問しました。その中に次の文言があります。

そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協動的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

ここでは、学習のスタイルを、「教師が何

を教えるか」と並行して「どのように学ぶか」を重視することを指摘しています。

「課題の発見と解決」という部分に注目します。ここでの学習は、あらかじめ設定された学習内容ではありません。それまでの学習から生徒がみずから課題を発見・設定し、解決するための学習を想定しています。当然、ここでは生徒の一人ひとりの主体的な学びへの姿勢が必要となります。また、生徒相互の討論や意見交換、作業などの協動的な学びも大切になります。その学習方法としてグループ活動がさらに見直されるようになりました。

#### (3) グループ学習の事例

全国中学校社会科教育研究大会での発表を参考にして次のような授業を考えました。

##### 1 地理的分野

[事例]「近畿地方」(環境保全)と「身近な地域の調査」を融合させます。

授業では、これまでに習得した知識や生活経験を活用し、セタジミが育つ持続可能な環境の実現に向けて、今後どのような取り組みを行えばよいかを提案させます。考察の視点として、「地域住民」、「漁業協同組合」、「企業」、「国や地方自治体」の立場を指示します。

単元の最後の授業とし、グループ活動で討論や発表、提言のまとめにあてます。授業の展開を次のように設定します。

- ① 個人で4つの立場について考えさせる。
- ② 4つの立場のグループに分かれ、課題解決のための取り組みを考えさせる。
- ③ 4つの立場から一人ずつが集まり、それぞれの考えを発表し、意見を交換させる。
- ④ 再度、4つの立場のグループに戻り、提言をまとめ、発表させる。

この指導案の特徴は、ジグソー方式を取り入れ、討論をくり返すことにより思考を深め

ることにあります。

(参考 平成26年 滋賀大会)

## 2 歴史的分野

〔事例〕「鎌倉を中心とした武家政権」で、鎌倉幕府創成期の状況を院(上皇)と幕府の狭間で懊悩する地頭の立場から考えさせます。

授業では、承久の乱における尾張の地頭・山田重忠を扱います。「北条政子の言葉」と「後鳥羽上皇の院宣」を示し、どちらを支持するのか、あるいはどちらにもつかないのかの理由と結論を出させます。授業の展開を次のように設定します。

- ① 尾張地域は、院の荘園が多く、鎌倉幕府の成立とともに御家人(地頭)になった者が存在したことを理解させる。
- ② 5人のグループをつくり、登場人物を分担し、それぞれの立場から考えさせる。  
〔登場人物〕 山田重忠、同夫人、家臣、  
上皇の使者、鎌倉の使者
- ③ 後鳥羽上皇からの使者、ついで鎌倉からの使者からあいついで旗色を鮮明にすることを求められるなかで、山田重忠を中心にして話し合いを進めさせ、結論を出させる。

この指導案の特徴は、武士の大義である「忠誠心」についてロールプレイングを行うことにより、当時の人の立場にたって考えさせ、歴史を実感させるところにあります。

(参考 平成20年 名古屋大会)

## 3 公民的分野

〔事例〕「私たちの暮らしと経済」の単元は、中学生にとってなじみが薄いとされています。そこで、経済単元の導入として、学区域内に小売店を立ち上げることを通して経済への関心や意欲をもたせます。授業の展開を次のように設定します。

- ① グループで、どのような小売店があった

ら地域の活性化につながるか、家族や地域の方などにインタビューした結果を発表させる。

- ② インタビューをもとに、「こんな小売店があったら…」という仮定で店を開くプレゼンテーションをグループごとにクラス全員の前で行わせる。
- ③ 小売店を開くために必要な条件を整理させる。

この指導案の特徴は、単元全体の導入としてプレゼンテーションを行い、「生産の3要素」や「市場経済のしくみ」、「働く人の権利」、「市場と競争」などの事柄に気づかせることにあります。

(参考 平成22年 宮城・仙台大会)

ここでは各分野一つずつの事例を紹介しました。指導計画を実践に移す際には、ねらいを達成するための指導の方法を考えます。その一つがグループ活動です。学習内容に応じてさまざまな立場の考え方や受けとめ方を体験させることにより生徒の学びは深まります。

### (4) グループ学習と座席の配置

東京学芸大学教授の荒井正剛氏は、かつて「グループの人数は4人が望ましい。」と書いていました。

討論や話し合いのグループを4人とするということについては、平成25年の全国中学校社会科教育研究大会・大阪大会の紀要に詳細な説明があります。そこでは4人を「市松模様」に配置することにより「6つの交わり」(図中の矢印)が行われ、学び合いが深まるとしています。

グループ学習の効果を高めるためには座席配置が鍵といえます。

